

第5回ノアンフェスティバルショパンインジャパンピアノコンクールパスポート賞 ③野口えりかさん

受賞者体験レポート～ノアンフェスティバルショパン 2025年7月編～

2025年、ノアンパスポート賞を頂き、7月の1週間のノアンショパンフェスティバルに参加できることは、この上ない幸運でした！

音楽祭が開かれるノアンは、パリから電車で2時間、そこからさらに車で一小時間ほど広々とした畑が広がる村で、ジョルジュサンドの館があり、ショパンも6年もの間、夏をメインに半年ほど過ごして後期の曲のほとんどを作曲した場所です。



大きな水色の門扉が開かれた館に着いたとたん、ショパンが長く暮らした場所に来たのかと鳥肌が立ちました。

ジョルジュサンドの館、かつては羊小屋だったホール、大きな庭、そしてショパンが滞在した部屋。毎日少しずつ歩いて味わい、コンクールを通じて学んだショパンの人生の一幕が、ここにあるんだと胸に刻むことができました。7月の爽やかなノアンの空気は、きっとショパンにも多くの影響を与えたでしょうし、毎年多くのゲストがこの音楽祭を楽しむのにぴったりに感じました。

丸々1週間の音楽祭は、午前中はラ・シャートルの教会で若いピアニストの公開レッスン、夕方からはショパンに関する講義やジョルジュサンドの館でのコンサート、音楽と文学が組み合わさった演劇などが開かれ毎日夜遅くまで盛りだくさんのラインナップでした。



若いソリストの公開レッスンは、イヴ・アンリ先生が教えてくださいます。現代ピアノと共に、ショパンがノアンに来た1839年製のプレイヤーリピアノの2台で開催され、音色やタッチの違いを聴きながら、ショパンの楽譜の指示をより深く考えないとという気づきを教えてくれました。

ショパンの時代のプレイヤーリピアノの所有者で調律師でもあるオリヴィエさんも毎日会場へいらして貴重なお話を伺うこともできました。



毎日開かれるコンサートは世界で活躍するピアニストが続々と登場。間近に聴こえる音に何度も感動しコンサート会場は演奏を讃える手拍子が鳴り止まず、アンコールが何度も演奏されました！このフェスティバル特有の心地よいムードは、本当に特別なものでした。



素晴らしい音楽祭に参加して、かけがえない経験をさせていただきました。

私たちをサポートしてくれたフェスティバルスタッフとの交流は、思い出をさらにすてきなものにしてくれましたし、同行した受賞者のみなさんとはショパンやピアノの話、コンサート後の感想など話題は尽きませんでした。

またフェスティバルの最中に日本から来たの？と話しかけられ、フランス人ショパンファンの方々と話を楽しんだりもできました。多くの方々と音楽祭をともに楽しみ、ピアノに浸った幸せなショパンの旅となりました。

第6回ノアンコンクール予選 2026年12月中旬締切、
本選は2027年4月23日～25日開催予定。
お問合せ：competition@bechstein.co.jp

nohant
FESTIVAL
Chopin
Un romantisme en nature

C. BECHSTEIN
JAPAN